

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力	育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点 ・未来社会を創造する資質・能力を身に付け、学び続ける子の育成 ・プレゼン教育・キャリア教育・郷土教育・ICT教育	⑤安全・安心で快適な学校環境の整備 ④DXを取り入れた教育の推進 ③地域の関係団体等との協働による郷土教育の推進 ②子ども、自己実現を支える教育の推進 ①豊かな心、健康な体力、確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進	進んでやりぬく宮小の子 くやさしく かしこく たくましく	対話を工夫しながら自分の考えを深める子	すべての子に居場所と絆を	①	目指す姿の明確化と自己肯定感の向上	児童と教師(学校・学級)の夢や目標の共有	A	・「つなげよう笑顔のボタン」の合言葉で、活動や行事のめあてづくりや価値づけを行ってきたことにより、児童や教師に夢や目標が浸透し共有ができた。 ・「なりたい自分」に向けての取り組み方を改善したことで、児童の前向きな意識を一年間保つことができた。満点賞・努力賞などの日常の頑張りを評価する一人一枚賞状も全員に渡すことができた。 ・「かがやき見つけ」を日常的に行うことに加え、児童会でもキャンペーンごとに行ってきたことで、「自分や仲間の良さ」を多面的にとらえる機会が増えた。 ・いじめアンケートや教育相談アンケートを計画的に実施し、早期発見に努めた。また、つかんだ事案については、組織的に対応し早期解決につなげた。 ・不登校児童については、本人や家族の意思を尊重しつつ、SSWなどの機関とも連携を図っている。
							一人一枚賞状(なりたい自分「マンダラ」との連動)	A	
							「なりたい自分に向けてがんばっている」	A	
							「自分には良いところがある」	B	
						① 人や物を大切にする心	物を大切にする(整理整頓、服をたたむ、使ったものを片付ける)	B	
							「仲間のよいところを見つけている」	A	
							「自分からいつでも、だれにでもあいさつをしている」	B	
						② 危機管理の組織的な対応	いじめ対応や食物アレルギー対応などをチームで迅速・確実に行う	A	
							個別の教育支援計画を常に改善しつつ、必要な支援を行う	B	
					②⑤ 要配慮児童への支援の充実	⑤	支援の必要な児童に必要なタイミングで組織的に対応する	A	
							完全不登校0 新規不登校0	C	
					⑤ 相談活動の充実	学校内に相談できる大人がいる(スマイルサポーター)	B		
				学力に責任をもつ	①	学習の質の向上	対話の工夫(「対話の技」を核として)	A	・「対話の技」を提示し全校で取り組んだところ、対話により考えが深まったと感じる児童が増えた(85%)。 ・「きりりタイム」では、ふりかえりの視点を明確にしたことで、児童も職員も学びの成長を実感することができるようになってきた(児童79%)。 ・対話やきりりタイムの充実により「授業が楽しい」と感じる児童(7月60%→12月65%)、「授業がわかる」と感じる児童(7月80%→12月88%)になった。 ・教科担任制により専科の授業が充実した一方で、専科外の授業についてはさらなる授業改善が必要である。 ・児童が自分で課題解決していく力をつけるために、次年度の研究構想に「見通しのもてる課題」「課題解決に向けた自己選択の場」を位置づけ取り組む。
							終末の「きりりタイム」による学びの成長(理解・姿勢等)の実感	A	
							全学年での教科担任制による授業の質の向上	B	
							「毎日の授業が楽しいと思う」	B	
							「毎日の授業がわかる」	A	
					①④	基礎・基本の定着 学習の個別化と指導の個性化の推進	CRTテスト学力低位層(平均点の1/2以下)を5%以下	A	
							タブレットを活用した、個に応じた指導・支援	B	
					①	自発的に考動できるようにするための授業改善	児童が学習の見通しをもてる課題づくり	B	
							課題解決に向けて、進んで取り組める環境づくり	B	
				児童(保護者・地域)と共に創る	①②③	キャリア教育の積極的な協働	地域の方の講話や地域での体験活動の充実	A	・年度末には、より郷土愛につながるような学習内容や講師について年間カリキュラムの見直しを行った。 ・クラブ活動について、夏場の暑い時期の活動内容について検討を行った。 ・一之宮地区全体で行う防災学習は、担当者同士で連携を図りながら、学年に応じた学習内容について改善している。
							地域の方の力を学校で活用(クラブ活動・お話玉手箱など)	A	
					①③	家庭との連携	眠育の推進 早寝早起き朝ごはん	B	
							地域と連携した総合的な学習(プレゼン教育・郷土教育)	B	
					③⑤	非常災害時に自分の命を守る力の育成	防災教育を地域と保小中連携で実施	A	

学校運営協議会における主な評価内容

・一之宮地区では保小中の連携に加え、にじ色やであい塾など子どもの学びを支える環境が充実している。これを利点ととらえ、子供に合わせた安心感や学びを作してほしい。
・町の行事に子どもたちが協力してくれる姿がうれしい。このような姿が引き継がれて宮を愛する子どもに育つよう応援したい。